

令和4年度

J A北海道厚生連 くっちゃん 倶知安厚生病院

臨床研修プログラム



J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修管理委員会
Kutchan-Kousei General Hospital

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

～ 目 次 ～

◆ 倶知安厚生病院の概要	3
I. 病院研修プログラムの目的と特色	5
II. 臨床研修の目標や評価	5
III. プログラム管理運営体制	6
IV. 臨床研修カリキュラム	7
V. 指導体制	10
専門医・認定医等の施設認定	12
VI. 募集定員ならびに募集・採用の方法	13
VII. 処遇	13
◆ 各科の概要と研修内容	15
内科（総合診療科）	16
内科（消化器科）	18
内科（循環器科）	20
小児科	21
外科	23
産婦人科	25
精神神経科	27
救急部門（麻酔科）	30
地域医療	32
整形外科	33
泌尿器科	35
耳鼻咽喉科	37
◆ 募集に関するお問い合わせ先	39
◆ 臨床研修申込書	40

倶知安厚生病院の概要

1. 病院の理念・基本方針

(1) 病院理念

私たちは、住民の皆様が健康で安心して暮らせる地域づくりに貢献し、もっとも信頼され選ばれる病院を目指します。

(2) 基本方針

1. 地域住民の皆様の意見を尊重し、優しさと暖かみのある医療を提供します
2. 救急医療を充実させ、いつでも安心して利用できる病院にします
3. 安全で安心できる医療サービスの提供に心がけます
4. 地域住民の健康維持、増進、福祉に役立つ病院づくりをいたします
5. 高い医療の質をめざし、常に新しい医療を提供できるよう職員の知識、技術向上に努めます

2. 病院の沿革と特徴

昭和20年4月、倶知安町より北海道農業会に経営移管を受け北農倶知安厚生病院として開設。昭和23年8月、北海道厚生農業協同組合連合会に移管。昭和46年6月、総合病院の認可、昭和48年12月、地域センター病院の指定、昭和49年3月救急指定病院指定などを経て現在に至っている。

地域医療中核病院、地域センター病院として必要な診療科の新設、MDC T・MRIなど医療機器の導入や病病（診）連携、医療と保健福祉の連携を実施している。

病院所在地は、JR倶知安駅より東へ約1.0km、国道5号と国道276号が交差する交通の要衝に位置し、札幌までは車で約1.5時間と近い。

眼前に圧倒的迫力でせまる羊蹄山がそびえ、また国内有数のリゾート地であるニセコやルスツ高原スキー場も間近にあり、風光明媚な羊蹄山麓7か町村エリア唯一の総合病院として、地域医療を担っている。

近年はオーストラリア人等、上記リゾート地域での外国人の疾病・傷病患者の受診も多い。

3. 概要

- (1) 名称 J A北海道厚生連 倶知安厚生病院
- (2) 所在地 〒044-0004 北海道虻田郡倶知安町北4条東1丁目2番地
TEL : 0136-22-1141 FAX : 0136-23-3142
- (3) 開設者 北海道厚生農業協同組合連合会
札幌市中央区北4条西1丁目 北農ビル
- (4) 面積 敷地面積 29,484 m²
建物延面積 26,656 m² (地下1階、地上4階)
- (5) 病床数 一般 172 床
精神 60 床
第2種感染症隔離病床 2 床

合計 234 床
- (6) 標榜科 15科
内科・消化器科・循環器科・小児科・外科・整形外科・
産婦人科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科 (休止中)
精神神経科・麻酔科・リハビリテーション科・脳神経外科
【標榜以外の診療科】
総合診療科・呼吸器科・神経内科
- (7) 従業員数 259名 (令和3年4月1日現在)
(常勤職員) 医師23名、薬剤師8名、看護職148名、医療技術職
38名、事務員29名、その他の職員13名

4. 主な機関指定 (認定)

地域センター病院	・・・	(指定日)	昭和48年12月1日
救急告示病院	・・・	(指定日)	昭和49年3月30日
病院群輪番制病院	・・・	(指定日)	昭和61年4月1日
へき地医療拠点病院	・・・	(指定日)	平成15年4月1日
DPC対象病院	・・・	(指定日)	平成21年4月1日
基幹型臨床研修病院	・・・	(指定日)	平成21年6月16日
災害拠点病院	・・・	(指定日)	平成23年11月1日
原子力災害医療協力機関	・・・	(指定日)	平成29年4月1日

I. 病院研修プログラムの目的と特色

平成16年度から開始された新たな臨床研修制度は、医師が医師としての基盤形成の時期に、患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力を修得することにより、医師としての資質の向上を図ることを目的としています。この患者の全人的な医療を行うためには、多様な診療科と地域医療等の素養を身につけることが医師にとって不可欠となります。

当院は地域に密着した総合病院であり、各科の専門的な治療の他プライマリ・ケア、救急医療や健康管理活動、訪問看護等を中心に幅広く患者様に医療等の提供を行っており、医師として初期の臨床研修を行うのに適した医療機関であると考えております。

当院での研修期間においては、必修科目として内科（24週）、救急（12週）、地域医療、外科、小児科、産婦人科、精神科（各4週）を履修し、臨床研修の基本理念にある医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけることを目的としたプログラムとなっております。

II. 臨床研修の目標や評価

臨床研修を行う分野・診療科、経験すべき症候や疾病・病態、到達目標の達成度評価については、厚生労働省による取り進めに従っております。詳しくは、医師臨床研修指導ガイドライン—2020年度版—（https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/ishirinsyoken_syu_guideline_2020.pdf）、新医師臨床研修制度における指導ガイドライン（http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~p_health/kenshu-gl/index.html）をご参照ください。

Ⅲ. プログラム管理運営体制

「臨床研修管理委員会」を設置し、研修計画・研修状況等について、審議・検討を行う。

「臨床研修管理委員会」の委員長は、臨床研修指定病院の「研修統括責任者」とする。

また、各診療科の臨床研修を円滑に実施するため必要に応じて「臨床研修連絡会」を設置し、委員会の具体的指示、問題点の周知を図る。

1. 研修統括責任者 臨床研修管理委員長 九津見 圭司（院長）

2. プログラム管理責任者 高木 誠次（副院長）

3. 研修実施責任者 木佐 健悟（地域医療研修センター長）

4. 研修管理委員会組織

(1) 臨床研修管理委員会

構成員 当院の臨床研修管理委員会委員および臨床研修協力施設の研修実施責任者および外部委員をもって構成する

委員長 1名、副委員長 1名

プログラム管理責任者 1名

委員 若干名

役 割 ①研修プログラム及び研修カリキュラムの全体的な管理
 ②研修医の全体的な管理
 ③研修医の研修中の状況及び修了時の評価
 ④採用時における研修希望者の評価
 ⑤研修後及び研修中断後の支援
 ⑥臨床研修連絡会に対する具体的指示
 ⑦研修継続困難者に対する注意勧告
 ⑧病院長に対する研修継続困難者の研修中断勧告
 ⑨卒後臨床研修後の専門医研修希望者の選考と院長への上申

(2) 臨床研修連絡会

構成員 当院の臨床研修管理委員会委員及び各部門の責任者により構成する

役 割 ①各研修診療科と院内各部門間の連絡調整
 ②臨床研修管理委員会の具体的指示の実施

IV. 臨床研修カリキュラム

1. 研修期間

厚生労働省の定めた指針に基づき、必修科目の6科（内科・救急部門（麻酔科）・外科・小児科・産婦人科・精神科）を1年目に、地域医療を2年目に研修し、残りの期間は自由選択科目（総合診療科・消化器科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・精神科・麻酔科・地域医療・救急等）より選択して研修する。

2. 研修カリキュラム

(1) 1年目研修

必修科目6科を研修する。

- ・内科：24週
- ・救急部門：12週（麻酔科4週含む）
- ・小児科・外科・産婦人科・精神科：それぞれ4週

【研修例】

	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
科目	内科※外来研修含む				救急※麻酔科4週含む			精神科	産婦人科	内科	小児科	外科	

- ・内科とは、総合診療科、消化器科、循環器科をいう。
- ・内科研修24週において、上記の診療科をローテート研修する。
- ・内科研修24週のうち8週については、協力病院である札幌厚生病院で内科（循環器科）を研修する。
- ・一般外来研修は主に総合診療科で実施する。
- ・救急の研修は12週とする（うち、麻酔科4週を含む）。及び研修中の2年間で行う当直研修においても救急を研修する。

(2) 2年目研修

- ・地域医療：4週
 厚生連内各一般病院・クリニック、及びJ A秋田厚生連雄勝中央病院、北海道家庭医療学センター（本輪西ファミリークリニック、寿都町立寿都診療所、更別村国保診療所、国民健康保険上川医療センター、栄町ファミリークリニック、北星ファミリークリニック）のいずれかにて行う。
- ・選択科目（総合診療科・消化器科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・精神神経科・麻酔科・救急・地域医療（上限8週）より選択し48週研修する。
- ・研修科目の研修順序は、研修医数及び協力施設との協議により臨床研修管理委員会が決定する。

【研修例】

	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
科目	選択科目	地域医療	選択科目										

① 選択科目の研修期間

- ・選択科目の研修期間は4週単位で行い、1科目を最長48週まで研修できる。
- ・選択科目を必修科目から選択した場合は、すでに研修した期間は選択科目としての研修期間に含まない。

② 選択科目の選択方法と注意事項

- ・選択科目の選択にあたっては、臨床研修の趣旨を理解する。また将来、自分が専門としたい診療科の研修のみならず、必修科目の研修を通して研修が不十分であった診療科の研修をすることが望ましい。

- ・選択科目の選択について、臨床研修管理委員長が研修状況（外来研修の不足、外科領域の症例不足等の特定診療科の研修不足）により特定科の研修を勧めることがある。
- ・カリキュラムは、1年目の研修は採用手続時に、2年目の研修は原則1年目研修修了の約1ヶ月前までに決定する。選択科目については、プログラム管理責任者に随時希望を伝える。
- ・一度決定した選択科目の変更は原則としてできないが、特段の事情があり、臨床研修管理委員長が認めた場合には、変更することができる。
- ・選択科目の変更は、変更したい科目の研修が開始される前に申請しなければならない。
- ・研修を開始した科目を、研修途中で中止することはできない。
- ・選択科目として、2年次に北海道大学病院、札幌医科大学病院、札幌厚生病院、帯広厚生病院（救急科と消化器科のみ）で短期間研修を選択できる（相手先の受け入れ状況による）。ただし、他院での期間は選択科目の地域医療研修も含めて16週を目安とする。

【CPCについて】

- ・当院及び協力型病院での研修において、剖検及びCPCの機会があれば積極的に参加して役割を担い、その重要性を体得すること。

【地域医療研修について】

地域の健康増進活動、地域・へき地医療、福祉のそれぞれの地域役割と重要性を理解し実践する。以下の医療機関のいずれかで4週研修する。

- ① むかわ町鶴川厚生病院（JA北海道厚生連一般病院）ほか厚生連一般病院・クリニック、その他協力病院（施設）

	名 称	指導医名	所 在 地
①-1	むかわ町鶴川厚生病院	院長 越智 勝治	むかわ町美幸1丁目86番地
①-2	JA北海道厚生連 摩周厚生病院	院長 舩田 和之	弟子屈町泉2丁目
①-3	町立沼田厚生クリニック	院長 鳥本 勝司	沼田町南1条3丁目
①-4	JA北海道厚生連 美深厚生病院	院長 川合 重久	美深町東1条南3丁目
①-5	JA北海道厚生連 まるせつぶ厚生クリニック	院長 塩越 隆広	遠軽町丸瀬布新町274
①-6	JA北海道厚生連 常呂厚生病院	院長 山下 昇史	常呂町常呂477
①-7	JA北海道厚生連 ゆうゆう厚生クリニック	院長 桂 敦史	上湧別町中湧別3020
①-8	JA北海道厚生連 苫前厚生クリニック	院長 浦 英樹	苫前町古丹別187
①-9	JA秋田厚生連 雄勝中央病院	院長 小松田 敦	秋田県湯沢市山田字勇ヶ岡25
①-10	本輪西ファミリークリニック	院長 佐藤 弘太郎他	室蘭市本輪西町3-36-9
①-11	更別村国民健康保険診療所	院長 山田 康介他	更別村字更別190番地1
①-12	寿都町立寿都診療所	院長 今江 章宏他	寿都町字渡島町72番地2
①-13	栄町ファミリークリニック	院長 中川 貴史他	札幌市東区北41条東15丁目1番18号
①-14	北星ファミリークリニック	院長 村井 紀太郎他	旭川市錦町19丁目2166番地
①-15	国民健康保険上川医療センター	院長 安藤 高志他	上川町花園町175番地
①-16	JA北海道厚生連 遠軽厚生病院	院長 稲葉 聡他	遠軽町大通北3丁目1番地5号

3. その他

(1) 研修指導体制

研修医 1 名に対して、原則として指導医が 1 名つき、診療の実践にあたりつつ、指導を行うこととする。

研修医はさらに診療科の主任部長・医長（指導責任者）の指導・監督を受ける。

(2) 救急診療

勤務時間内に研修中の診療科が担当する救急患者が搬入された場合には、指導医、上級医のもとで診療にあたる。

(3) 日当直

①日当直は研修実施責任者が日当直可能と認めた場合に行う。

②研修医が日当直に従事する場合には、必ず指導医、あるいは上級医と共に日当直する。

産婦人科を研修中は、指導医、あるいは上級医の指示に従って、夜間、休日の分娩等の産科救急に備える。

③回数については月 2 回を目安とするが、希望により日直 1 回、当直 4 回程度まで認める。

また、他院で研修中の期間はそれぞれでの基準に従う。

V. 指導体制

1. プログラム管理

プログラム管理責任者 高木 誠次（副院長）

2. 研修実施責任者

木佐 健悟（地域医療研修センター長）

3. 各科指導医名簿

氏 名	職 名	出身大学	免許年次	資 格 等
【総合診療科】 木佐 健悟	地域医療研修センター長 (兼) 主任医長	北 大	H 1 6 年	日本内科学会認定医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本医師会認定産業医 平成24年度北海道厚生連臨床研修指導医ワークショップ 修了
熊谷 洋	部長	東邦大学	H 8 年	日本内科学会認定総合内科専門医 日本医師会認定産業医 平成27年度北海道プライマリ・ケアネットワーク指導医講習会修了
岸野 宏貴	医長	杏林大学	H 1 9 年	日本プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医 平成27年度日本プライマリ・ケア連合学会指導医講習会修了
【消化器科】 駒場 福雄	健診センター長 (兼) 主任医長	信州大学	H 1 5 年	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 平成23年度北海道厚生連臨床研修指導医ワークショップ 修了
【整形外科】 九津見 圭司	院 長	北 大	S 6 2 年	日本整形外科学会専門医・指導医 平成18年度特定研修第2回医師臨床研修制度研修修了
田辺 明彦	主任部長	旭川医大	H 1 3 年	日本整形外科学会専門医・指導医 平成29年度北海道厚生連臨床研修指導医ワークショップ 修了
【産婦人科】 早川 和彦	主任部長	旭川医大	S 6 0 年	日本産科婦人科学会専門医 平成29年度北海道厚生連臨床研修指導医ワークショップ 修了

氏 名	職 名	出身大学	免許年次	資 格 等
【泌尿器科】 高木 誠次	副 院 長	札幌医大	H 1 年	日本泌尿器科学会指導医・専門医 平成20年度愛知県厚生連臨床研修指導医ワークショップ 修了 平成25年度プログラム責任者養成講習会修了
【耳鼻咽喉科】 早川 博樹	主任部長	北 大	H 8 年	日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 平成21年度北海道・北海道医師会 指導医のための教育ワークショップ 修了
【精神神経科】 土田 正一郎	診療部長 (兼) 主任部長	山 口 大	H 1 0 年	日本精神神経学会専門医・指導医 精神保健指定医 日本医師会認定産業医 平成20年度愛知県厚生連臨床研修指導医ワークショップ 修了
【麻酔科】 小塚 雄史	診療部長 (兼) 主任部長	山梨医大	H 5 年	日本麻酔科学会専門医 平成22年度北海道厚生連臨床研修指導医ワークショップ 修了

専門医・認定医等の施設認定

当院は、専門教育のための施設として、下記のような認定を受けている。

- (1) 日本整形外科学会 専門医制度研修認定施設
- (2) 日本泌尿器科学会 専門医教育施設
- (3) 日本精神神経学会 精神科専門医制度研修施設
- (4) 日本麻酔科学会 麻酔科認定病院
- (5) 日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療後期研修認定施設
- (6) 日本専門医機構 総合診療専門研修プログラム基幹施設
- (7) 日本内科学会 内科専門研修プログラム連携施設

臨床研修病院指定 厚生労働省発医政第1214031号

臨床研修協力施設 厚生労働省発医政第1214031号

VI. 募集定員ならびに募集・採用の方法

1. 募集定員
各年次 2名（基幹型臨床研修病院として）
2. 募集方法（詳細は医師臨床研修マッチング協議会HP参照）
 - ①募集 募集定員のすべてをマッチングで募集する
マッチングで欠員が生じた場合には、マッチング終了後に2次募集する
 - ②参加〆切 令和3年8月上旬（第1次）
 - ③連絡方法 まずはメールで連絡してください。面接の日程調整をおこないます。
 - ④応募書類 臨床研修申込書（指定様式）、履歴書（写真貼）、卒業見込証明書
 - ⑤選考日 令和3年9月下旬までに選考する
 - ⑥選考方法 書類審査、面接
 - ⑦採用通知 マッチング結果により、ただちに本人に通知する

VII. 処遇

1. 身分
常勤嘱託医
2. 研修医手当
医師免許取得後の年数に応じて次のとおりとする
医師免許取得後 1年目 月額 500,000円（時間外手当含む）
医師免許取得後 2年目 月額 530,000円（時間外手当含む）
3. 勤務時間および休暇
平日 8時30分から17時まで（時間外勤務あり）
土、日、祝日および会の定めた休日（年末年始）は休診
年次有給休暇制度あり（1年次計10日、2年次計11日）
4. 日当直
日当直時は指導医または上級医とともに行う
日当直手当は、給与規定に基づき支給する
5. 住宅
専用の研修医住宅は備えていないが、医師住宅に入居することが可能（実費請求）
医師住宅に空きがない場合には、近郊の賃貸住宅などを斡旋（住宅手当を支給）
6. 社会保険等
公的医療保険：北海道農業団体健康保険
公的年金保険：厚生年金
労働者災害補償保険適用有 雇用保険適用有

7. 健康管理

健康診断 年1回

B型肝炎ワクチン接種

インフルエンザ予防ワクチン接種

8. 賠償保険

病院賠償保険を適用

病院賠償保険は北海道厚生連の各病院内で行われる医療行為、あるいは北海道厚生連が行う医療事業に関わる事故を補償するものであり、それ以外で行われる医療行為に関する事故については補償されない

また、事故が発生し絶大な過失があると判断された場合は、求償することもある
医師賠償保険の加入（病院で加入）

9. 研修活動

学会等の参加の場合は旅費等を支給

道外：年1回（発表者に限り）

道内：年1回（発表者に限り）

10. 研修期間中のアルバイト禁止

研修期間中はアルバイトをせず、研修に専念すること

11. その他

臨床研修医研究室内に個人機の設備有（共同部屋であり個室ではない）

各科の概要と研修内容

◆ 必修科目

1. 総合診療科
2. 消化器科
3. 循環器科（札幌厚生病院）
4. 小児科
5. 外科
6. 婦人科
7. 精神神経科
8. 救急部門（麻酔科）
9. 地域医療

◆ 選択科目

10. 院内対応可能科目

総合診療科・消化器科・外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神神経科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・救急部門（麻酔科）

11. 院外対応可能科目

- ・ 地域医療（北海道厚生連内における一般病院、クリニックなど）
- ・ 北海道大学病院、札幌医科大学病院、札幌厚生病院、帯広厚生病院（救急科、消化器科のみ）で研修を受けることができる。

※受け入れ先の状況次第

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名：内科（総合診療科）

1. プログラム責任者：木佐 健悟

2. 一般目標

- 1) 地域センター病院においてプライマリー・ケアがどのように行われているかを理解する
- 2) generalな知識の修得を目指す
- 3) 患者の身体的疾患だけではなく、その背景にある心理・社会的面にも配慮しながら診療する態度を学ぶ
- 4) 各専門科へのコンサルトの仕方を身に付ける
- 5) 医療だけでなく保健・福祉との関係を知り地域社会の成り立ちを学ぶ

3. 行動目標

- 1) common disease に対する初期治療・慢性疾患管理の修得
- 2) 緊急性の高い疾患に対してのある一定の一次的救急診療の経験
- 3) 患者に対して「傾聴」を第一に置き患者の疑問に対し説明や治療を解りやすく行う
- 4) 患者の日常的な健康問題に対処するだけでなく精神面・家族背景・社会背景（社会資源の活用）まで含めての相談役となること
- 5) 他科と協力しながら患者を中心においた医療を行なう
- 6) 医療だけでなく保健・福祉との連携を学ぶ

4. 経験目標

- 1) 経験すべき検査・手技・治療法
 - a) 一般的身体診察法
 - b) 初診・再診の面接の仕方
 - c) 一般的疾患の入院管理
- 2) 経験すべき症状・病態・疾患
 - a) 外来でよくみるcommon disease(急性感染症、高血圧症、糖尿病、脂質異常症、不定愁訴を含む心療内科的疾患等)
 - b) 頻度の高い疾患、複数の疾患をもつ高齢者などの入院診療
(脳血管疾患、気管支喘息・COPDなどの呼吸器疾患、肺炎・尿路感染などの感染症、糖尿病、代謝疾患など)

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8:30申送り・回診	8:30申送り・回診	8:30申送り・回診	8:30申送り・回診	8:30申送り・回診
午後	13:00～勉強会③	13:00～勉強会③	12:45～勉強会③	12:45～勉強会③	13:00～勉強会③
	16:30～カンファレンス②	16:30～カンファレンス②	16:30～カンファレンス②	16:30～カンファレンス②	16:30～カンファレンス②
備考	①救急外来はオンコール ②新患症例検討会・入院患者のカンファレンス（毎日16時30分頃開始） ③抄読会・臨床推論カンファレンスなど ④時期により住民健診・人間ドックの診察等を行う ⑤余裕があれば外来診療・訪問診療				

※病棟の状況により、症例カンファレンス・リハビリカンファレンス・NSTカンファレンス
 上級医によるレクチャーを行う

※病棟研修から開始し、研修の進行状況により救急外来、一般外来など研修内容を広げる

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名：内科（消化器科）

1. プログラム責任者：駒場 福雄

2. 一般目標

-
- 1) 地域型病院における実地診療を通じて、臨床医すべてに求められる各領域にわたる基本的な知識、技術を修得する。
 - 2) 救急患者の初期診療に必要な臨床能力を修得する。
 - 3) 患者、家族との信頼関係を築き、医師としてのマナーを理解する。
 - 4) コメディカルとの協調性を保ち、医療がチームで行われることを理解する。
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

3. 行動目標

-
- 1) 内科学全般にわたる内容を基本とし、主に消化器疾患を経験する事で臨床内科医として必要な態度、知識、技術、判断力などの基本的能力を修得する。
 - 2) 積極的にカンファレンスに参加し、プレゼンテーションができる。上級医師との密な連携をとり、担当医としての自覚、責任を持って診断、治療方針を決定する姿勢を身につける。
 - 3) 医師としての診療マナーを身につけ、身体的な所見だけでなく患者を全人的にとらえられるようになる。患者とその家族に対する丁寧なメディカルインタビュー、検査・治療に関するインフォームドコンセントなど医師・患者関係を良好に保つ基本的態度、姿勢について理解し実践する。
 - 4) 医療チームの一員としてコメディカルと協調し、他の診療科との連携が速やかに行うことができるようになる。
 - 5) 救急疾患の初期診療に必要な基本的な知識、技術、態度を修得し、専門医に委ねるべき状況、時期を迅速かつ的確に判断する。
-

4. 経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療法

上部消化管 X線検査、内視鏡検査
下部消化管 X線検査、内視鏡検査
画像診断（腹部超音波、X線CT、MRI）
緊急内視鏡検査（内視鏡的止血術）
治療内視鏡（ポリペクトミー、粘膜切除術）
血液検査一般、血液ガス分析
中心静脈栄養、カテーテル挿入
体腔穿刺（腹腔、胸腔）
胃瘻（PEG）造設

2) 経験すべき症状・病態・疾患

・経験すべき症状

複数の臓器が原因となりうる頻度の高い症状について経験、理解する～腹痛、背部痛、胸痛、腰痛、頭痛、めまい、全身倦怠感、体重増加・減少、食思不振、咳嗽、四肢のしびれ、歩行困難、腹部膨満、排便異常、悪心・嘔吐、浮腫など
--

・経験すべき疾患群

消化器疾患（消化管、肝・胆道系、膵）
ターミナルケア
老年医療

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来研修	内視鏡検査	外来研修	外来研修	内視鏡検査
午後	内視鏡検査	内視鏡検査	外来研修	外来研修	内視鏡検査
備考				病棟 カンファレンス	

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名：内科（循環器科）

1. 研修実施先 札幌厚生病院

2. 一般目標

札幌厚生病院において、8週間、内科系診療科（循環器科）の研修を行う。2ヶ月中に剖検を研修し、CPCを実施する。

3. 行動目標

1. 頻度の高い内科系（循環器科）疾患について基礎的知識を修得する。
2. 内科系（循環器科）疾患の診断、治療に必要な基本的手技、検査法につき研修する。
3. 剖検、および検体診断の意味を理解し、対処できる。

4. 経験目標

内科系疾患における、経験すべき検査・手技・治療法・症状・病態・疾患・疾患群を札幌厚生病院での研修を通じて修得する。
病理組織診断、剖検手順体得、CPC参画

5. 週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科系外来 または	内科系外来 または	内科系外来 または	内科系外来 または	内科系外来 または
午後	内科系入院病棟 または 病理組織診断・剖検・CPC	内科系入院病棟 または 病理組織診断・剖検・CPC	内科系入院病棟 または 病理組織診断・剖検・CPC	内科系入院病棟 または 病理組織診断・剖検・CPC	内科系入院病棟 または 病理組織診断・剖検・CPC
備考					

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名〔小児科〕

1. 研修実習先 当院もしくは網走厚生病院、札幌厚生病院

2. 一般目標

-
- 1) 日常診療で頻度の高い小児疾患について理解し、診断・治療及び分かりやすい説明ができる

 - 2) 仮死児に対する蘇生ができる

 - 3) 新生児のケアができる

 - 4) 新生児、乳児の健診で正常な発達を理解する

 - 5) 予防接種について理解する

 - 6) 救急疾患に対して適切な初期の対応ができる

 - 7) 疾患のさしあたっての緊急性や重症度の判定ができる

 - 8) 小児科での発疹性疾患や感染性疾患の鑑別、治療、管理ができる

 - 9) 血液検査、生理的検査、放射線検査、エコー検査、脳波検査などの適応や基礎的な解析ができる

 - 10) 慢性疾患の管理、治療についての重要な点を理解する

 - 11) 両親の育児に関する不安、患児、保護者（父母）の疾病に対する不安を理解し、対応ができる

 - 12) 投与薬剤の量、副作用、禁忌について知る

 - 13) 保険制度、公費負担制度について知る

3. 行動目標

-
- 1) 小児の正常な運動、精神発達を健診等を通して理解する

 - 2) 乳幼児健診を通して育児の不安内容にどのようなものがあるかを知る。

 - 3) 急性疾患の病状の推移を知ることによって疾病の経過を予測し治療を組み立てる

 - 4) 小児科疾患で日常見られる疾患に重点を置いてその特徴を理解しながら診察する

 - 5) 必要な検査を選択し、その結果の意味するところを理解し、過不足が無いかを検討する。

 - 6) 疾患の説明が教科書の内容にならないような分かりやすい説明の仕方をする。

 - 7) 年齢、体重、現症などから薬剤の投与量や補液量を定める。

 - 8) 共感的な態度で患児・保護者の話を聞く。

4. 経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療法

1. 検査と手技
小児の理学的所見の取り方、血管確保、採血（静脈、動脈、血液培養）、導尿、腰椎穿刺、気管内挿管
予防接種
エコー検査、心電図検査、脳波検査、各種モニターの装着、人工呼吸管理
2. 治療法
高度脱水症、喘息発作、痙攣重積、腸重積など緊急処置を要する病態に対する緊急処置
感染症の鑑別と適切な抗生剤の使用
状態、検査結果などを参考にした、補液量の算出や、補液内容の調整
適切な内服薬や座薬の処方

2) 経験すべき症状・病態・疾患

急性感染性疾患や小児科で頻度の多い疾患。
先天性心疾患、仮死、痙攣重積、喘息発作、腸重積、低出生体重児、糖尿病性昏睡
様子を見てよい状態と厳重な監視が必要な状態の振り分け
すぐに診断のつかない病態に対するアプローチの仕方

5. 週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来研修 または病棟回診	外来研修 または病棟回診	外来研修 または病棟回診	外来研修 または病棟回診	外来研修 または病棟回診
午後	病棟研修 または外来研修	俱知安及び近郊の町の 乳児健診	予防接種 乳児健診	俱知安及び近郊の町の 乳児健診	病棟研修 または外来研修
備考					

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名〔外科〕

1. 研修実習先 当院もしくは札幌厚生病院
2. 一般目標

手術および周術期管理と多発外傷等の救急疾患に関連する外科的基本事項を学ぶ。
同時に患者、家族に対する思いやりのある接遇と看護師、検査技師等と協力して
診療に従事することの重要性を認識する。

3. 行動目標

周術期の病態の理解と患者診療に携わる。
緊急時に指導のもとでの的確な判断と行動をとる。

4. 経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療法

-
- 1) 術前診断、手術適応、術後管理を一貫して指導医の下で行う。
 - 2) 手術の助手、術者となる。
 - 3) 救急蘇生処置、外科的基本手技を経験する。
-
-

2) 経験すべき症状・病態・疾患

1) 診断

-
- a. 病歴（現病歴、既往歴、家族歴）を正確に把握して記録できる
 - b. 身体理学的所見を正確に把握して記録できる。
 - c. 消化器症状および腹部所見からどのような疾患が考えられるかその鑑別診断を述べる
ことができる。
-
-

d. 頸部腫瘍、乳腺腫瘍からどのような疾患が考えられ、鑑別診断のためにどのような検査計画を立案するべきか判断できる。

e. 多発外傷の重傷度を判断して適切な治療方針を立案することができる。

2) 検査

a. 一般外科疾患（乳腺、甲状腺疾患を含む）、消化器疾患、呼吸器外科疾患、外傷、熱傷に必要な血液生化学検査の解釈ができる。

b. 画像検査（単純写真、消化管造影、胆管・膵管造影、CT、MRI）の読影ができる。

c. 内視鏡検査（上部および下部消化管）の読影ができる。

d. 腹部超音波検査を施行でき、かつ読影ができる。

e. 心電図、スパイロメトリーの基本を理解し、全身麻酔の適応が判断できる。

3) 処置

a. 中心静脈カテーテルの挿入と管理を行い、高カロリー輸液など周術期の適切な輸液計画を立てることができる。

b. 創処置の原理と手技を理解できる。

c. 術後ドレーンの管理ができる。

d. 手術摘出標本の整理を行い、取り扱い規約にのっとりその所見を述べることができる。

4) 治療

a. 消化器疾患、呼吸器疾患、乳腺疾患、甲状腺疾患、外傷、熱傷について治療方針、特にその手術適応について適切な判断ができる。

b. 手術に助手として参加し、開腹、閉腹、虫垂切除、鼠径ヘルニア根治術の術者を経験する。

5. 週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来診療 病棟回診	外来診療 病棟回診	外来診療 病棟回診	外来診療 病棟回診	外来診療 病棟回診
午後	検査	手術	検査	手術	検査
備考	乳がん検診		乳がん検診		乳がん検診

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名〔産婦人科〕

1. プログラム責任者：早川 和彦

2. 一般目標

-
- 1) 女性特有の疾患における基礎的知識およびその診療における基本手技を研修する。
 - 2) 妊産褥婦および新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。
 - 3) 女性特有の疾患における救急医療を研修する。
 - 4) 不妊治療における基本的知識を研修する。
-
-

3. 行動目標

-
- 1) 問診および病歴の記載ができる。
 - 2) 産婦人科の基本的な診察法（視診、双手診、膣鏡診など）を理解し、施行できる。
-
-
-

4. 経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療法

(検査・手技)

-
1. 妊娠診断（免疫学的妊娠反応、超音波検査）を理解する。
 2. 子宮悪性腫瘍検査（子宮腔部・体部細胞診、病理組織検査、血清学的検査）を理解し、手技を経験する。
 3. 婦人科感染症（トリコモナス症、カンジダ症、クラミジア感染症など）の検査を理解する。
 4. 婦人科内分泌検査（基礎体温表、ホルモン検査、負荷検査など）を理解する。
 5. 不妊検査（精液検査、頸管粘液検査、卵管疎通検査など）を理解する。
 6. 超音波検査（産科超音波、経膣超音波、ドプラー法）を理解し、手技を経験する。
 7. 画像検査（腹部単純X-P、骨盤計測、子宮卵管造影、CT、MRI、IVPなど）を理解する。
 8. 鏡視下検査（コルポスコピー、腹腔鏡、子宮鏡）を理解する。
-

(治療)

1. 処方箋の発行（薬剤の選択・薬用量、投与上の必要性・安全性）を理解する。
2. 注射の施行（皮内・皮下・筋肉・静脈・中心静脈）を理解する。
3. 手術創（腹部・腔部）の術後管理を理解する。
4. 産婦人科手術の基礎を理解する。
5. 分娩の管理、介助の基礎を理解する。

2) 経験すべき症状・病態・疾患

1. 婦人科疾患として頻度の高い症状：腹痛・腰痛・不正出血など
2. 緊急を要する症状：急性腹症・大量の性器出血など
3. 産婦人科特有の疾患・病態：
周産期関係（妊娠・分娩・産褥の理解、妊娠の診断・検査、外来での妊娠管理、正常分娩の管理、帝王切開術の経験、流・早産の診断・管理、産科出血に対する応急処置法の理解）
婦人科関係（骨盤内の解剖の理解、婦人科内分泌異常の理解と管理、良性疾患の診断および治療計画の立案・手術などの治療への参加、悪性腫瘍の早期診断および集学的治療の理解、不妊患者の検査・治療計画の立案、性感染症の検査・診断・治療）
4. その他：産婦人科診療に関係する倫理的問題の理解、母体保護法などの関連法規・学会勧告の理解など

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来
午後	外来 病棟	検査 外来 病棟	産後検診 病棟	手術 病棟	検査 外来 病棟
備考	17:00～婦人科 カンファレンス		17:00～産科 カンファレンス		

*分娩・緊急患者・緊急手術には随時立ち会う

4. 経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療法

(1) 医療面接：患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報がえられるように医療面接を実施する。共感性をもってかつ客観的・冷静に患者・家族とコミュニケーションをとるために、どのような表情・話し方・態度をとるべきかを学ぶ。さらに、診察から病歴（主訴・主症状、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業・学歴）を的確に聴取・記録できること、患者・家族への適切な指示、指導ができることを目標とする。面接は精神療法の重要な部分であり、面接を開始した時点で精神療法が始まると考えるべきである。

(2) 基本的な診察法：基本的な精神症状（意識、知能、意志、感情、思考、幻覚、妄想など）の聴取・把握。特に、気分障害（うつ病、躁うつ病）、認知症、統合失調症、ストレス関連障害、身体表現性障害、パニック障害等の不安障害に関連する精神症状を把握する診断技術。

(3) 基本的な臨床検査（精神科の診断と治療のために必要な検査）：脳波、心電図、血算・白血球分画、血液生化学的検査、一般尿検査。単純X線検査、頭部CT・MRI検査。

(4) 基本的治療法・診療計画：精神疾患の診断と性格、社会的・家庭的因子（ストレスなど）を考慮に入れて、薬物療法と精神療法、家族療法の治療計画を立案し、実施する。処方箋の書き方、病棟での指示の出し方を習得する。その際に、安静度を病状に応じて指示し、家庭・職場の環境調整を行う。以上の診療計画を患者、家族に説明する。

(5) 医療記録：診療録を的確に随時まとめ、週毎にサマリーを作成し、入院時に作成した診療計画の修正を行う。

2) 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 頻度の高い症状

①全身倦怠感

②不眠

③食欲不振

④けいれん発作

⑤不安・抑うつ

⑥精神運動抑制

⑦物忘れ

(2) 緊急を要する症状・病態

- ① 自殺企図

(3) 経験が求められる疾患・病態

- ① 症状精神病
② 認知症
③ アルコール依存症
④ 気分障害（うつ病、躁うつ病）
⑤ 統合失調症
⑥ パニック障害などの不安障害
⑦ 身体表現性障害、ストレス関連障害

3) 特定の医療現場の経験

(1) 精神保健・医療

- ① 精神症状の捉え方の基本を身につける
② 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ
③ デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来研修 病棟回診	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
午後	デイケア 病棟カンファレンス	病棟回診	デイケア	病棟回診	デイケア 病棟カンファレンス
備考			デイケアカンファレンス	症例検討会	輪読会

※ 外来患者診察は予診と指導医による診察の見学・補助を行います。

※ すべての研修は指導医による指導のもとに行われます。

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名：救急部門（麻酔科）

1. プログラム責任者：小塚 雄史

2. 一般目標

- 1) 麻酔科における全身管理の発想と技術を習得し、救急患者および重症患者に対応する能力を養う。
- 2) 他科の医師ならびに他職種の人々とのコミュニケーションを図り、チーム医療を学ぶ。
- 3) 地域中核病院における救急対応能力の限界を知り、高次救急医療機関への転送適応を知る。

3. 行動目標

- 1) 麻酔科医の麻酔科関連領域における役割について理解する。
- 2) 手術予定患者の術前評価について述べることができる。
- 3) 術前得られた患者情報や予定術式に従い麻酔計画を立てることができる。
- 4) 麻酔計画に則り、麻酔準備ができる。
- 5) 麻酔計画に従い、麻酔を実行できる。
- 6) 麻酔中の患者の呼吸・循環管理が出来る。
- 7) 不測の事態が起きた場合の対処ができる。
- 8) 術後鎮痛法の基本原則や方法について理解する。
 - ・ 痛みの神経伝達経路の概略
 - ・ 先取り鎮痛の基本概念
 - ・ 各種術後鎮痛法の長所、短所
 - ・ オピオイドの硬膜外投与またはくも膜下投与の長所と短所
 - ・ その他
- 9) 術後合併症の可能性を知り、その予防策について理解する。
- 10) 重症患者管理について理解する。
 - ・ モニタリング（心電図、血圧計、動脈カテーテル、中心静脈カテーテル、パルスオキシメータ、カプノグラフィ、尿量、体温など）
 - ・ 呼吸・循環作動薬の使い方、使い分け
 - ・ 輸液管理
 - ・ その他
- 11) プライマリケアについて理解する。
- 12) 患者転送車両（救急車）に同乗し、患者の状態を観察する。
- 13) 重症救急患者管理について理解する。

・ 外傷患者の初期評価
・ 緊急気道確保
・ 酸素化の評価
・ 換気の評価
・ 急性期意識障害の評価
・ 一次救命処置 (BLS)
・ 二次救命処置 (ACLS)
・ その他
14) WHOの癌性疼痛治療指針について理解する。
15) 術後痛を含め急性疼痛管理について理解する。
16) 手術室の運営を理解する。
17) 医療事故対策を立案し、実行できる。
18) 麻酔科関連領域における看護師、臨床工学技師、臨床検査技師、放射線技師、薬剤師などの役割を認識し、協力して医療を行う。

4. 経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療法

用手気道確保、バッグ・マスク換気、各種器具を使用した気道確保（気管挿管、ラリンジアルマスクなど）、静脈血採血、動脈血採血、末梢静脈確保、動脈確保
 各種モニタリング機器の装着・挿入（体温センサー、尿道カテーテルなど）
 各種鎮静薬・鎮痛薬の使用法、循環作動薬の使用法
 病態に即した輸液・輸血計画、酸塩基平衡の理解、その他

2) 経験すべき症状・病態・疾患

気道閉塞、挿管困難症、低酸素症・高炭酸ガス血症、術中高血圧・術中低血圧、不整脈、心肺停止、各種ショック、急性呼吸不全、意識障害、各種外傷、その他

5. 週間スケジュール（麻酔科研修）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	救急外来研修	救急外来研修	救急外来研修	救急外来研修	救急外来研修
	術前・術後回診	術前・術後回診	術前・術後回診	術前・術後回診	術前・術後回診
午後	臨床麻酔	臨床麻酔	臨床麻酔	臨床麻酔	臨床麻酔
備考					

※救急研修は終日、救急外来研修

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名〔地域医療〕

1. 実施先
 むかわ町鶴川厚生病院・摩周厚生病院・町立沼田厚生クリニック
 美深厚生病院・まるせつぶ厚生クリニック・常呂厚生病院・ゆうゆう厚生クリニック・
 ・苫前厚生クリニック・遠軽厚生病院・網走厚生病院・J A秋田厚生連雄勝中央病院・
 更別村国民健康保険診療所・寿都診療所・本輪西ファミリークリニック・栄町ファミリークリニック・
 北星ファミリークリニック・国民健康保険上川医療センター

2. 一般目標

厚生病(医)院および他の協力型病院（施設）において、過疎地域や規模の小さい
 医療機関での医療のあり方、医師の役割といったへき地医療の研修修得を行う。

3. 行動目標

へき地医療や規模の小さい医療機関における診療計画を立てることができる。

4. 経験目標

それぞれの地域の頻度の高い疾患や健康問題の対応を経験する。

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	地域医療研修	地域医療研修	地域医療研修	地域医療研修	地域医療研修
午後	地域医療研修	地域医療研修	地域医療研修	地域医療研修	地域医療研修
備考	・厚生病院(クリニック)、他の協力型病院（施設）で、4週実施 ・上記スケジュールは一例であり、研修先施設のスケジュールに従う				

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名〔整形外科〕

1. プログラム責任者：九津見 圭司
2. 一般目標

整形外科的慢性疾患の診断、治療を習得する。外傷の診断、初期治療から手術、そして術後理学療法に至るまでの一連の診療能力を習得する。当院は周囲を農村に囲まれ、日本屈指のスキー場に隣接している。よって冬季には、スキーやスノーボードなどによる非常に多種多様なスポーツ外傷の診療を経験することができ、春季から秋季にかけては多くの農作業事故や交通外傷の治療に携わることができる。

3. 行動目標

以下の項目を習得する。

- 1) 適切な病歴聴取とその記録。
 - 2) 病歴に基づいた適切な画像撮影（レントゲン撮影、CT、MRIなど）の指示とその画像の読影。
 - 3) 基本的な診察法。
 - 4) 画像と診察に基づいた臨床診断。
 - 5) 基本的な治療法。
 - 6) 患者、家族に対する適切な説明と指導。
 - 7) 医療チームの一員として周囲との適切なコミュニケーション。
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

4. 経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療法

検査としては脊椎腔造影、神経伝達速度の測定。手技としては神経根ブロック関節内、肩峰下滑液包内注射、膝関節穿刺、関節脱臼整復、外固定（ギプスやシーネ）、直達牽引。基本的な理学療法（可動域訓練、筋力訓練）の指導と処方。外傷に対する基本的な手術手技。

2) 経験すべき症状・病態・疾患

外傷一般（骨折、関節脱臼、靭帯損傷、捻挫、腱損傷）、脊椎疾患（腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）、肩関節周囲炎、腱板断裂、上肢の末梢神経障害（手根管症候群、肘部管症候群など）、テニス肘、狭窄性腱鞘炎、亜脱臼性股関節症、変形性膝関節症、転移性骨腫瘍、慢性関節リウマチ、痛風。

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来研修 または病棟回診	外来研修 または病棟回診	症例検討会 外来研修 または病棟回診	外来研修 または病棟回診	外来研修 または病棟回診
午後	手術		手術	リハビリテーション カンファレンス	手術
備考					

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修プログラム

◎診療科名〔泌尿器科〕

1. プログラム責任者：高木 誠次

2. 一般目標

外来診療に参加して、主要な泌尿器科疾患に関する診断までのプロセスを理解する。

また、診断に必要な検査の選択とその実施手技を学ぶ。

入院診療においては、チームの一員として担当症例の診断、治療を受け持つ。

主な泌尿器科疾患の手術適応、周術期管理の実際を習得する。

3. 行動目標

1) 患者の病歴聴取と記録ができる。

2) 泌尿器科疾患を中心とした基本的診察法を実施し、記載できる。

3) 泌尿器科疾患を中心とした基本的検査・治療手技を理解し、実施できる。

4) 医療チームの構成員としての役割を理解し、同僚医師・コメディカル職員と円滑なコミュニケーションをとることができる。

5) 患者・家族への適切な指示と指導ができる。

6) 症例検討会などで症例呈示と討論ができる。

4. 経験目標

- 1) 経験すべき検査・手技・治療法
- 2) 経験すべき症状・病態・疾患

入院診療

1. 尿路性器癌に対する手術適応と術式選択が説明できる。
2. 泌尿器科疾患に対する基本的手術の実施
前立腺生検、膀胱瘻造設、経皮的腎瘻造設術、腎生検の適応を説明でき、かつ指導者のもとで実施できる。
3. 周術期の管理
尿路カテーテルの管理ができる。
高齢者の病態を評価できる。

外来診療

1. 排尿症状、疝痛発作、血尿、混濁尿、尿量の異常、尿道分泌物、腹部腫瘤、陰囊内容腫瘤などの症状、所見から適切な診断および鑑別診断ができる。
2. 上記の診断に基づいてそれぞれの標準的な治療法を実施できる。
3. 尿検査、画像診断法（排泄性尿路造影、排尿時膀胱尿道造影、腹部CT、腹部MRI、腎シンチグラフィ、腎臓／前立腺超音波検査など）の適応を理解し、実施できる。

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来研修	病棟回診	外来研修	病棟回診	外来研修
午後	検査	手術	検査	病棟カンファレンス 検査	手術
備考					

4. 経験目標

- 1) 経験すべき検査・手技・治療法
- 2) 経験すべき症状・病態・疾患

入院診療

1. 耳鼻咽喉科疾患に対する手術適応と術式選択が説明できる。
2. 耳鼻咽喉科疾患に対する基本的手術の実施
3. 周術期の管理

外来診療

1. 耳鼻科咽喉科疾患の症状、所見から適切な診断および鑑別診断ができる。
2. 上記の診断に基づいてそれぞれの標準的な治療法を実施できる。
3. 耳鼻咽喉科疾患に係わる検査、画像診断法の適応を理解し、実施できる。

5. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来研修	外来研修	手術	外来研修	外来研修
午後	検査 病棟研修	外来研修	手術	検査 病棟研修	外来研修
備考					

【募集に関するお問合せ先】



〒044-0004

北海道虻田郡倶知安町北4条東1丁目2番地

JA北海道厚生連 倶知安厚生病院 臨床研修委員会事務局

電話 : 0136-22-1141 (代表) 事務局 (内線7065)

FAX : 0136-23-3142

E-Mail : kutchanhp@ja-hokkaidoukouseiren.or.jp

<http://www.ja-hokkaidoukouseiren.or.jp/byouin/kutchan/index.html>

初期臨床研修申込書

J A北海道厚生連 倶知安厚生病院
院長 九津見 圭司 行

私は下記のとおり、貴院において初期臨床研修を受けたいので申しいたします。

ふりがな 氏 名		男 ・ 女
生 年 月 日	昭和・平成	年 月 日生 (歳)
現 住 所	〒	TEL FAX
上記以外の連絡先	〒	TEL FAX
E-mailアドレス		
卒業(予定)大学名		卒業(予定)年月： 年 月
地域枠・奨学金	勤務配置に制約 (有 ・ 無)	
将来専攻したい診療科		
医師 宿 舎 の 希 望	有 ・ 無	有の場合(家族構成)：
【当院での研修を希望した理由】		

令和 年 月 日

氏 名 _____ 印 _____